



パース通信



Vol.10

今年度1年間交換教員として、オーストラリアのパースに赴任している英語科伊東が、オーストラリアや海外から見た日本についてお伝えします。

「世界はグローバル化が進んでいる」と言われるようになって久しいですが、みなさんは「グローバル化」とは一体何だと思っていますか？ 英語が自由に使えることですか？ たくさん海外の人に日本に観光に来てもらうことですか？ 就職した会社の同僚や上司が外国人だという社会のことですか？ 今号は、みなさんと一緒にグローバル化について考えてみたいと思います。

昨今、神戸の町を歩いていると日本語を話していない人たちと出会うことが増えてきました。観光で外国から多くの方が日本を訪れてくれるようになりましたし、日本で生活をしている人も以前に比べてとても多くなりました。神戸には、海外でも日本でも有名な海外の企業の日本支社があったりもします。ご存知ですか？

この記事を読んでくださっているみなさんも、日常生活の中で、授業以外で、外国の方とお話をしたという経験をお持ちでしょう。

では、そうした環境になったことがグローバル化なのでしょうか。インターネットを使って、たくさんの情報を、国境を超えてやり取りできることがグローバル化なのでしょうか。九州で作られたいちごが、農協を代表とする流通システムを介さないで、中国で販売されていることがグローバル化なのでしょうか。ユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、日本食が海外でも広く認知されるようになったことがグローバル化なのでしょうか。毎日来ている肌着が作られている工場が、日本ではなくアジアの国であったりすることでしょうか。

確かにこういったこともグローバル化と言われる現象の一部だとは思いますが、きっとこういうことが当たり前になっていくことがグローバル化が進んでいるということを示しているのは間違いのないと思います。

今、私の住んでいるパースでは、電車に乗ると様々な人種の人と出会います。それはもう本当にありとあらゆる人種です。見た目からして、全く違います。もちろん共通に使われている言語は英語ですが、大半の人は、自分や両親、または祖父母が移民してきた人たちで、第一

言語が英語でない人が多くいます。

そして、こちらの人はずっと親切です。困っていると伝えると、みなさん助けてくれようとしてくれます。お話しも丁寧に聞いてくれますし、一生懸命理解してくれます。英語が自由に使えない場合にも、自分がそうした時期があったという人がとても多くいますし、そうした人たちと普段から接しているので、本当に丁寧に対応してくれます。

そうした多文化が当然のように受け入れられているパースでは、困っている人がいたりすると、当然ですが英語で話しかけます。見た目がどんな風であれ、自分のバックボーンとなる文化や言語はあっても、共通に使えるのは英語で話しかけるのが当たり前なことなのです。

では翻って、日本のことを考えたらどうでしょう。

例えば、みなさんが町で困った様子を見せている外国人を見かけたらどうしますか？ 見た目日本人ではないなあと思う人が何か困った様子を見せている。自分は英語が自由には使えない、というか自信などない。そんな時、あなたはどうしますか？

何とか助けてあげたいけれど、他の誰かが助けてくれるだろうと思って、勇気がなくて見て見ぬ振りをしますか？ 勇気を振り絞って、苦手な英語で話しかけますか？ それとも日本語で話しかけますか？

みなさんももうお分かりでしょう。大切なのは、なんとかしてあげたいと思う気持ちそのものと、語りかけること、そのものなのだ。たとえそれが、日本語であっても、英語であっても、スペイン語であってもかまわないのです。困っている人がいたら、どうしましたかと声をかける。見た目が日本人ではないという人に対しても、自分の中のバリアを越えて行動に移す。大切なのはそこなのだと感じています。

あなたの中のグローバル化がきっと大切なのです。世界のことに目を向けて、毎日の生活を見直してみたいかがでしょうか。きっと新しい世界がそこに広がっていると思います。

次回の通信は、「パースの医療について」をお届けしようと思います。